

サジオモダカ

Alisma plantago-aquatica var. orientale

オモダカ科



サジオモダカ

名前の由来

葉がさじ（スプーン）に似ているオモダカ属が由来。オモダカは葉の面が人面に似ており、その葉が水面から高い位置にあるため、オモダカ（面高）と名付けられた。また、葉がやや反った形になることから、高慢な面に見えるので、“面高”だという見方もできる。

漢字名：匙面高

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類
ワシ・タカ

形態的特徴

浅い水中から生える抽水植物。湿った陸地にも生える湿生植物でもある。花時には高さ50～80cmになる。葉は全て根元から出る。葉柄が長く、葉とあわせると10～60cmになる。葉は楕円形で長さ5～20cm、幅3～12cm。葉柄は長く6～40cm、肉質で、葉との境目は明瞭。花序は大きく、全体の大きさの半分ほどを占める。数個の段に分かれて枝を輪生し、その枝から長さ1～2cmの花柄が出て先端に花をつける。花のひとつひとつは非常に小さく直径5mm程度。3枚の白い花びらが付いている。果実は倒卵形で扁平、長さ1.5～2mm。外側の側面に浅い溝がある。



花序が全体の半分を占める

類似種と見分け方

類似種はヘラオモダカだが、十勝川流域ではサジオモダカのほうを見ることが圧倒的に多い。ヘラオモダカとは葉や種子で区別する。葉が楕円形で葉柄との境目が明瞭なのがサジオモダカ。葉が細長く葉柄との境目が不明瞭なのがヘ

ラオモダカ。種子では、外側の側面に浅い溝があるのがサジオモダカ、深い溝があるのがヘラオモダカ。このほか、花はアギナシにも似るが、アギナシの葉はつけ根付近が左右に分かれた矢じり型なので、区別しやすい。



サジオモダカ。葉が匙（スプーン）形になっている



サジオモダカの花。同科の種と似るが、葉が匙形なのはサジオモダカだけなので容易に見分けられる

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期						■						

生育環境・分布

湖沼や池や河川、流れがないか緩やかな水路の浅いところに生育する。

分布：国外分布は、東～中央アジア。

国内分布は、主に北日本。

道内分布は、全道。

十勝地方では、湖沼や水路などの流れがないか緩やかな水域の浅い場所に生育する。



サジオモダカの小群落。浅く、流れの無い場所を好む

生活史

開花時期：7～8月

開花までの年数：不明だが、十勝川下流域に人為的につくられた池では出現（発芽）して1年目に花がみられた。た

だし、出現した個体が種子由来か根茎由来かは不明。

寿命：多年草

他生物との関わり

マガモなどの草食性カモ鳥が果実を食べる。

エゾシカが生息している地区では、サジオモダカの葉や茎を食べることがある。

サジオモダカのような水中の植物は、トンボや底生動物、魚類など水域に生息する動物の産卵場所や隠れ場所となる。

興味深い話

■同じオモダカの仲間にはヘラオモダカ（鏡面高）がある。この種も葉の形がへらに似ているために名付けられた。さじもへらも形は似ているが、サジオモダカは葉身の基部がやや心形なのに対し、ヘラオモダカは次第に細くなるため、区別はできる。

■地下で育つ塊茎をタクシャ（沢瀉）と呼び、薬用にする。

中国から輸入されるタクシャは大型の塊茎である。タクシャは利尿、利水効果があり、漢方薬として他の生薬とともに配合される。五苓散、八味地黄丸、当帰芍薬散など有名な漢方薬に配合される。

■水田にも生育し、同属のヘラオモダカ、同科のオモダカ、アギナシなどとともに水田では雑草として扱われる。



出たばかりのサジオモダカ



サジオモダカの大群落

配慮事項

サジオモダカが生育するためには水深10～20cm程度、泥底の環境が必要である。

参考文献

「日本の野生植物 草本Ⅰ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001

「日本水草図鑑」角野康郎 文一総合出版1994

「野草の名前 秋冬」高橋勝雄 山と溪谷社 2003

『大阪薬科大学 薬用植物園』（大阪薬科大学）

<http://www.oups.ac.jp/supported/koho/remsai/sajiomodaka.htm>

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類
ワシ・タカ